

3月8日のウクライナ情報

安齋育郎

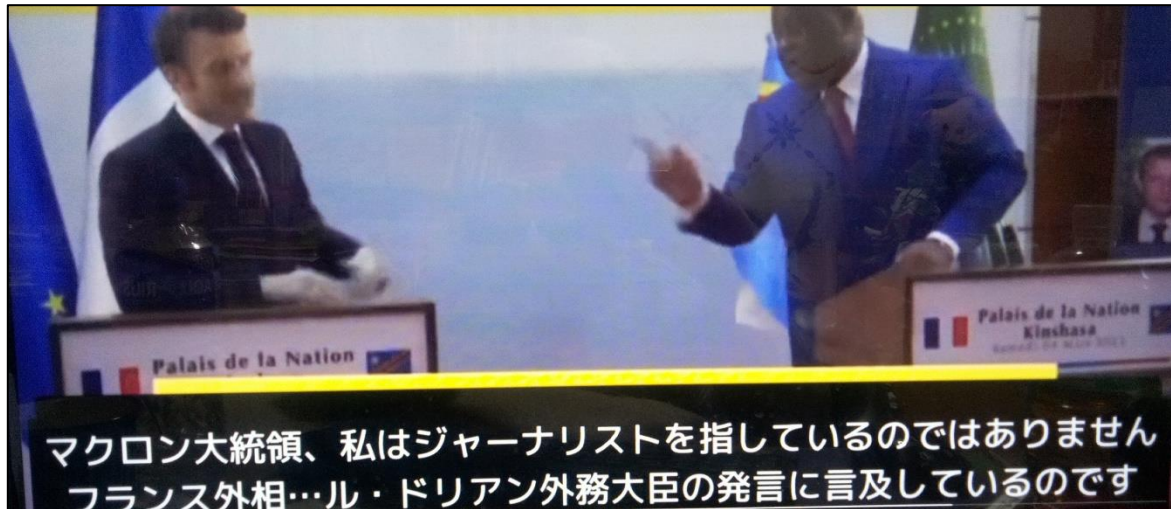
●マクロン大統領、会見で怒られる(2023年3月6日)

マクロン:「それはジャーナリストの発言であって政府を代表するものじゃない」

コンゴ民主共和国大統領:「おたくの外務大臣の発言だが？」

コンゴは約 80 年間フランスの植民地だった、独立したがフランス優位の立場は変わらない

<https://twitter.com/i/status/1632590966669578241>



●ノルウェーとアメリカ、ノルドストリーム爆破を否定(2023年3月7日)

※投稿者コメント:YouTube からの警告により、このインタビューの内容が制限されたため、動画の約 30 秒後に一部の画像をボカしています。現在ご覧いただいているのは、編集されたバージョンです。私たちの番組で放送されたこのインタビューのノーカット版については、democracynow.org をご覧ください。

democracynow.org

※安齋注:これ開けないみたいです。

昨年 9 月、ロシアからドイツへ天然ガスを運ぶノルドストリーム・パイプラインが破損したとき、米国当局はすぐにロシアが自国のパイプラインを爆破したのだと指摘した。しかし、伝説的な調査ジャーナリストであるシーモア・ハーシュの新しいレポートによると、ノルウェーの協力を得て破壊工作を行ったのはアメリカ海軍であったということです。ハーシュは、「作戦計画を直接知る」情報源を引用して、この作戦の計画は 2021 年 12 月に始まったと、自身のブログ「Substack」に書いています。ホワイトハウスとノルウェー政府はその後、この主張を否定しています。ハーシュは詳細なインタビューに応じ、彼の報告書について語り、パイプラインを爆撃するという米国の決定は、同盟国が揺らいでいた時期に、ウクライナへの支持を固定するためのものであったと述べた。「ヨーロッパが戦争から手を引くことを恐れたのです」と彼は言う。ハーシュは、1970 年に「ミライの虐殺」の報道でピューリッツァー賞を受賞している。ベトナム戦争時代に CIA が反戦活動家をスパイしていたことを報道し、情報機関の大改革につながるチャーチ委員会の結成に貢献し、2004 年にはイラクのアブグレイブ囚人虐待スキャンダルを暴露しています。

<https://youtu.be/d4BuMaGlKp0>



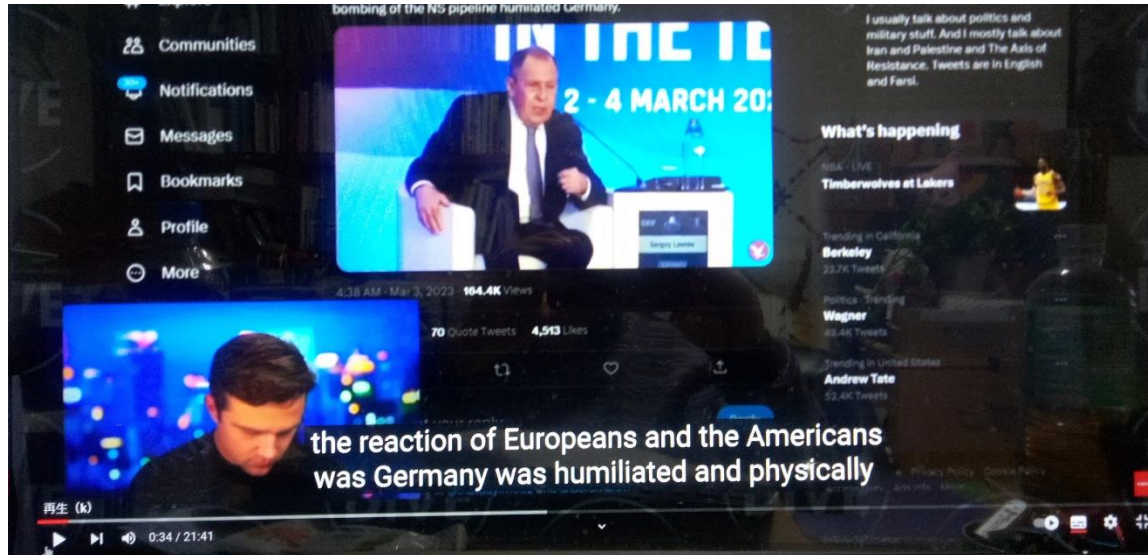
●ラブロフ:ノルド・ストリーム爆破事件はドイツを苦しめた(2023年3月5日)

※安齋注「苦しめた」と訳されている部分の言語は humiliate で、「恥をかかせる」「自尊心を傷つける」「さらし者にする」という意味です。日本語字幕はありませんが、字幕機能でご覧下さい。ラブロフの指摘はもっともだとするコメントなどが 1500 件以上寄せられています。

ラブロフ談:国連総会の対ロシア反対決議は米国が国々を脅迫して 140 いくらの票の結果となった。脅された国々が、「反対票の見返りは何よ」と米国に聞くと、「反対票を投じた国には制裁しないよん」と米国が言った。

「それはここに居る人たちが多くが知ってるでしょ。」とラブロフ外相の話は面白いね。

<https://youtu.be/2NIg6tbXV2U>



●ファイザーの違法な社内実験を告発したジェームズ・オキーフの感動的スピーチ(及川幸久、2023年3月6日)

※安齋注:ウクライナ問題とは直接関係ない情報ですが、アメリカでの新型コロナ・ウィルス感染症蔓延の中で、ファイザー社が、変異株を人為的に作る違法な実験をして予防ワクチンの先取り開発をやっていたことを内部告発した事実を明らかにしたジェームズ・オキーフが、(あのトランプ氏も出席する)アメリカの保守陣営の総会とも言うべ

き大会に、内部告発をした女性を登壇させ、「立ち上がれ!!」とスピーチする話です。ウクライナ問題でも、民衆レベルでもっと立ち上がってほしいアメリカですが。

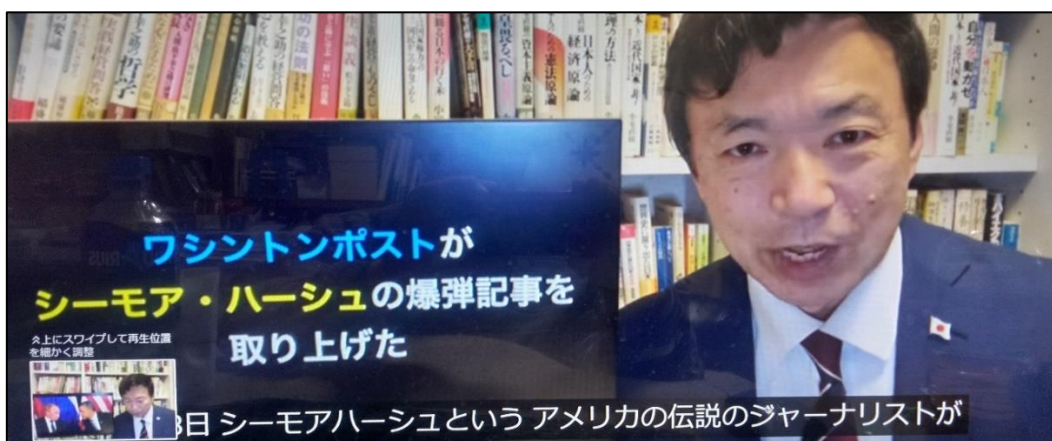
<https://youtu.be/lRpLuGDMPAo>



●ウクライナ問題の仕掛け人はオバマ(2023年3月5日)

※安齋注:ノルドストリーム・パイプライン爆破をワシントンポストが取り上げたことを話題に、ウクライナ紛争の原点に迫ります。

https://youtu.be/urMM1_Pc3oE



●道化師ゼレンスキー(リチャード・ブラック、2023年3月7日)

<https://youtu.be/nk14GTtQTvA>

※安齋注:日本語字幕はありませんが、字幕機能を利用してご覧下さい。



●誰がウクライナを戦場にしたのか？ーリチャード・ブラック大佐(米海兵隊・陸軍・上院議員) 日本語字幕付き

米軍退役大佐リチャード・ブラック氏のインタビューです。

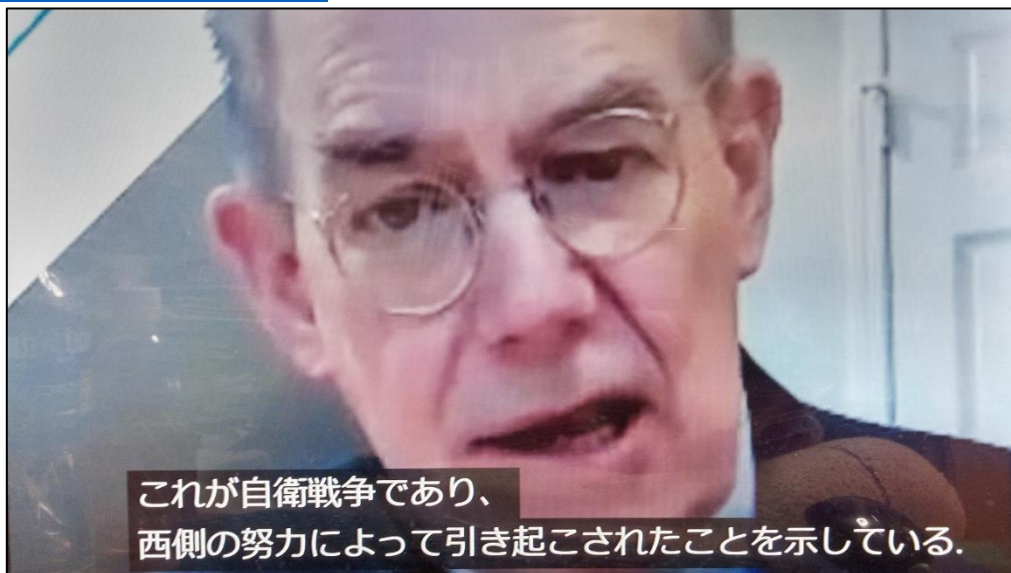
<https://youtu.be/eAFgbFTws90>



●この戦争にプーチンには責任はない(ミアシャイマー、2023年3月7日)

※安齋注:日本語字幕はありませんので、字幕機能呼び出してご覧下さい。変な訳も出てきますが、要するに、ウクライナ戦争を起こしたのはウクライナを防波堤にしたいという西側陣営であってロシアではない。この戦争を起こしたことは西側が責任を負うべきで、ロシアにとっては自衛戦争だという趣旨です。ジョン・ミアシャイマーはシカゴ大学教授です。早くから、アメリカこそがこの戦争をゆ誘発した原因者だと主張していました。

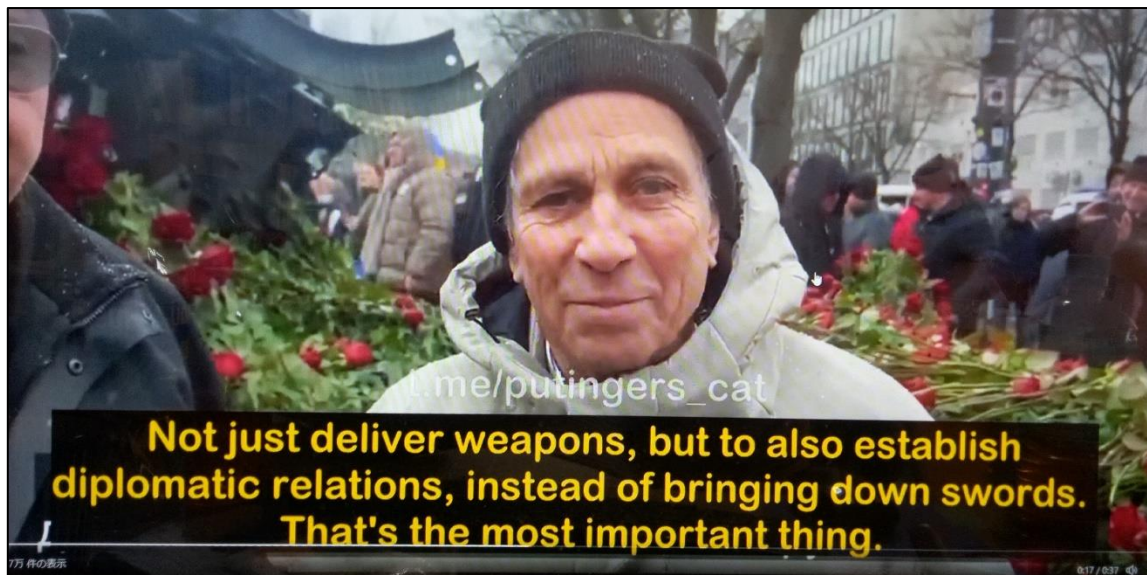
<https://youtu.be/rweLaI-gflo>



●ビスマルク初代首相の曾孫の弁(2023年2月26日)

ドイツの初代首相オットー・フォン・ビスマルクのひ孫であるアレクサンダー・フォン・ビスマルクは、花を持ってベルリンの広場にやってきて、当局に交渉を求め、誰もロシアとの戦争は必要ない、「ドイツ人とロシア人は敵ではない」と念押ししました。

<https://twitter.com/i/status/1629647688559112192>



●プーチン暗殺への布石 ロシア反政府運動の活発化を演出(原伸一、2023年3月7日)

※安齋注:フォークシンガーの原伸一さんのおなじみのライブ告知の映像ですが、今回はロシア国内での反体制運動の活発化を印象づけるウクライナ側の画策について話しています。

<https://youtu.be/GNbSDroGrbY>



●メルケルの告白とミンスク合意の裏側(2023年2月27日) 日本語字幕付き

<https://youtu.be/USzuG-IJG4w>

注:この動画は、メインチャンネルで 2022 年 12 月 13 日と 2023 年 1 月 8 日に配信した、メルケル首相の告白とプーチン大統領の反応とミンスク合意の裏側 ~ マリーヌ・ルペンとのスピーチとメルケルの述懐、ふたつの動画を再編集したものです。



●20年前のイラク同様、ウクライナでクーデターを演出した(リチャード・ブラック、2023年2月25日)

米国は、軍事力の助けを借りて、20 年前にイラクで行ったように、ウクライナでクーデターを演出した。

この発言は、バージニア州の元上院議員リチャード・ブラック氏が RT で行ったもので、中東状態でのアメリカ軍の侵攻を分析したものです。

「私たちは、イラクでクーデターを起こすために、地球の裏側まで行って軍事力を行使した。そして、世界の他の地域から武力介入して、ウクライナでクーデターを起こした。この 2 つの紛争の原点に私たちはいたのです。」

ブラックはまた、ゼレンスキーを操り人形、コメディアンと呼んで批判した。

”メディアが彼のイメージを作り上げるまで、彼は全く何も表していなかった。” ”彼は今、大概、それを演じている”

<https://twitter.com/i/status/1629178756194500612>



●退役 CIA 職員のフィリップ・ジラルディのプーチン観(2023年3月3日)

プーチンは米国よりも優れた関係モデルを世界に提供していると、CIA のジラルディが書いている。ロシアのプーチン大統領が提唱する世界の多極化モデルは、米国が押し付ける世界秩序よりも優れていると、退役 CIA 職員のフィリップ・ジラルディがインタビューで語った。

”プーチンは長年、世界にはさまざまな統治モデルがあり、誰もが自分の文化や自分の利益などを持つことが許されるべきだと言ってきた。私にとっては、それは非常に合理的なアプローチだ」と述べた。

ジラルディによれば、アメリカはその代わりに、表向きは「国際法」に支配され、そのルールや法律がその場で作られる一国主義的なモデルを志向しているのだという。



●英国人傭兵が語るバフムートの恐怖体験(2023年3月7日)

英国の傭兵がバフムートで体験した恐怖をタブロイド紙「メトロ」に語っている。

30歳のジェームズ・ディーはFacebookの募集で、2022年3月に入隊。22歳のチャドウィックは、ロシアが特別軍事作戦を発表した後ウクライナに行った。

「マイナス17度で足や腕の感覚がない夜もあった。最初に来たときは木の葉で作ったシェルターがあったのに、今はない。基本的に、地獄とはこういうものだ」と語った。

また、神風ドローンとの遭遇についても語った。彼らはドローンを見たことがなかったが、逃げなければならないと思ったという。

「何であるかすぐに分かったので、ドローンだ！神風だ！と叫んだ。できることはただ逃げる事だけだった」

ディーはバフムートでの立地が悪かったという。ロシア軍が高台に陣取り、塹壕に向けて発砲。近くのウクライナ人のいる塹壕が砲撃され多くの負傷者がいたが、誰も彼らを避難させられなかったという。

メトロの記事一部「戦車や迫撃砲、大砲が直接塹壕を攻撃してくる。私の友人の多くは、この塹壕で死傷している。ロシア軍は夜間、歩いて攻撃しようとするので特殊部隊の兵士(山岳旅団)ではないかと言われている。」



●バフムートから避難するのを拒む住民たち(2023年3月7日)

※日本語の字幕がついています。バフムートは大激戦地。ここでの戦闘の帰趨がドンバス地方の全体の戦局に影響すると言われるが、その激戦地から逃げない人々の意向とは？

アルチェモフスク(バフムート)で取材したドイツ人ジャーナリスト

「多くの人が様々な理由で避難を拒んでいます、バフムート、特にドンバスではロシア軍を待つという人がいる」

現地のお婆ちゃん:「ウクライナ兵が家を奪うんだ、少年が外に放り出されて撃たれているのを見た」

<https://twitter.com/i/status/1632970958054256641>



●ウクライナ紛争で利益を得ている EU 加盟国-メディア(2023年3月7日)

ブルガリアはキエフに数十億ドル相当の武器を販売し、その代金は第三者国によって支払われ納入されたとフランスのメディア EURACTIV は報じている。

ブルガリアは、ソ連が設計した兵器と互換性のある弾薬の主要生産国。

昨年だけでも 10 億ドル分の武器が、主にポーランドとルーマニアを通じて送金された、と情報筋は語っている。

「米英ポに優れた資金力を持つプログラムがある。このプログラムを通じて、ウクライナに必要な軍備が購入されるが、その資金はウクライナではなく米英ポ欧州のもの」と情報筋は語った。

この密輸は、1 月にドイツ Die Welt が報じたが、この計画はブルガリア元首相ペトコフ 42 歳と元財務相にあるとした。この 2 人はハーバード大卒で、共に設立した親 NATO の政治運動に所属している。



●2014 年 ウクライナ マイダン革命:オバマ政権の暗躍まとめ(2023年3月2日)

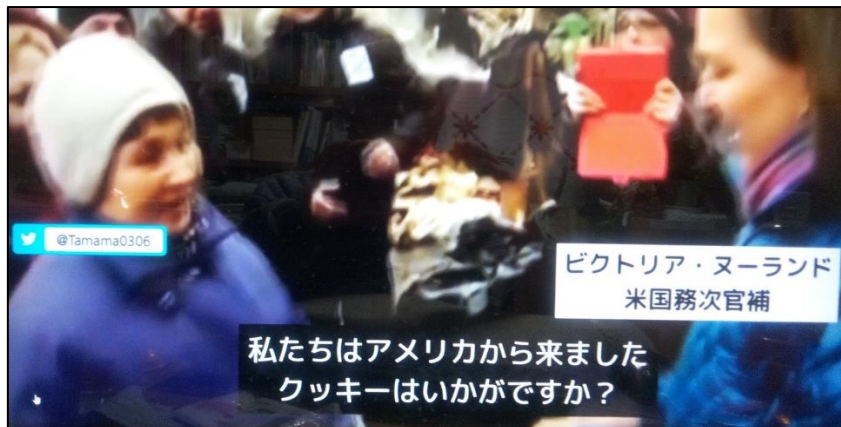
オバマ:「我々はウクライナに積極的に関与した」

ジョン・マケイン:「我々はウクライナと共にある」

ヌーランド:「投資家のために EU の連合協定に署名させられなければ我々の仕事が無駄になる」

「政府にはヤツエニユクを推奨する」

<https://twitter.com/i/status/1631290040348180485>



●元 CIA 分析官の心の変化(203年3月3日)

米中央情報局の元分析官レイ・マクガバン氏: 一時私は米のやり方には何か思惑があるのかと疑った。今では米国は狂ったのだと思っている。米国がこのようにする唯一可能な解釈とは、米国は自尊心が高くなりすぎ、誰もそれを治すことができないというものだ。

<https://twitter.com/i/status/1631582135172861952>



●ロシア-EU の昨年の実績(2023年3月7日)

ロシアと EU の貿易額は昨年 2,586 億€に達し、8 年ぶりに過去最高を記録。RIA Novosti が 3 月 7 日、Eurostat のデータに基づいて推定した。

同時に EU からロシアへの輸出は、2005 年以来最低の 552 億€に減少。



●ロシアと NATO の主力戦車を比較(2023年3月7日)

北大西洋条約機構(NATO)は、ウクライナへの戦車供与を承認した。ウクライナは、今後1年半の間で約350両の戦車を受け取る可能性がある。

その戦車とは、米国製の M1A2 エイブラムス、ドイツ製のレオパルト 2、英国製のチャレンジャー2など。西側諸国の戦車は戦場で、ロシアの戦車 T-90M、T-80BVM、T-72B3 などに対抗することになる。

これらの戦闘車両の主な特徴を比較してまとめたものを、スプートニクのインフォグラフィックをご覧ください。

